

## 88星座が決まって100年

### 88星座の制定

星と星を結んで作る星座は、約5,000年の歴史があるとされます。その後、現在世界で用いている88星座が決められたのが1922年。ですから、今年は現行星座の制定からちょうど100年にあたります。

世界中の天文学者が組織された国際天文学連合(IAU)は、1919年に設立され、1922年にイタリアで第一回総会が開催されました。会議の間では多くの議論がされましたが、その中の一つが、使用する星座のことでした。

日本天文学会の会誌『天文月報』を見ると、大正12(1923)年1月号に、「万国天文学協会総会に於て可決されたる決議事項(一)」という記事があり、表記に関する委員会での決議として、星座に関して

1. 星座の名称にはラテン語を専用すること
2. 天球上主要な88個の星座の名称を三文字で略記すること

という2点が報告されています。そして、この決議を受けて、イギリスのハーバード天文台が星座のラテン語名とその略記号のリストを考案、発表し、これを採用することになりました。

### 88星座の境界線

1922年のIAU総会で星座名称が決まりましたが、天文学者の間では、まだ星座に関して解決すべき問題が残っていました。それはそれぞれの星座領域を区切る境界線です。当時、空のどの場所がどの星座の領域に属しているかは、まだ国際的な取り決めがされていない状態でした(写真1)。このことは、星座線では結ばない暗い恒星だけでなく、突然現れる超新星や天球上を移動していく彗星などの位置を表現する際、例えば「かに座(領域)に新星が現れた」といった表現を使うと混乱が生じる恐れがあり、不便です。

そこで、1928年7月にオランダで開催されたIAUの第三回総会において議論され、その結果星座の境界は、1875年に

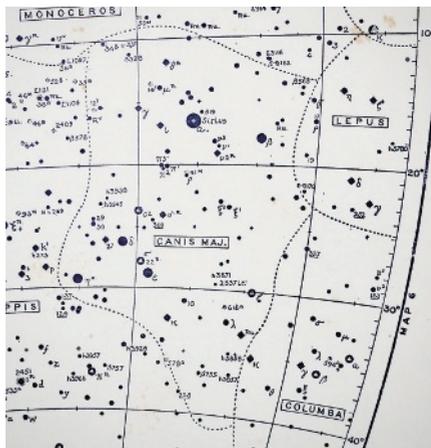


写真1:境界線決定前の1927年に刊行されたノルトン星図(科学館所蔵)の一部。点線が境界線。

天文学者ゲールドが行った南天星座の境界区分法に基づき、1875年分点による赤経線と赤緯線に沿って境界を決めるという案が可決されました。そして、この決議に基づいて、1930年にベルギーのデルポルテによって作られた『星座の科学的境界設定(Delimitation scientifique des constellations)』が出版され、標準として使われることになりました。

こうして、8年の歳月をかけて、現在使われている星座の名称、境界線が確定したことがわかります。

## アルゴ座

ところで、1922年にハーバード天文台が発表した星座リストには、星座が89個記載されています。その89個目がいわゆる「アルゴ座」で、星座名Argo、略記Arg、としてリストアップされています。しかし、これは一つの星座としての名前ではありません。アルゴ座はもともと、南天にある大きな星座でしたが、1922年に「ほ座」、「とも座」、「りゅうこつ座」の3つに分けられました。そこでリストでは、その3つの星座の総称として「アルゴ座」の名も併記したのです。

このように、天文学者の中で88星座が整理されましたが、総称としてのアルゴ座の名はその後もしばしば使われました。例えば科学館の前身である大阪市立電気科学館の1938年のパンフレットにも、アルゴ座の名前が見られます(写真2)。他にも、1930~40年代に出版された天文普及書には、総称としてアルゴ座を用いているものはいくつか見られましたが、時代とともに徐々に使われなくなったようです。



写真2:1938年3月発行の電気科学館パンフレット。表紙の星図に「アルゴ」の名が見える。

嘉数 次人(科学館学芸員)